

**製品名: HSL (リン酸化 Ser552) ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab04800**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	117kDa

**抗原情報**

遺伝子名	LIPE
別名	LIPE; Hormone-sensitive lipase; HSL
遺伝子 ID	3991.0
SwissProt ID	Q05469
免疫原	抗血清は、Ser552 のリン酸化部位周辺のヒト HSL 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 518-567

**背景**

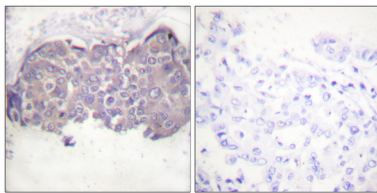
この遺伝子によってコードされるタンパク質には、代替翻訳開始コドンの使用によって生成される長い型と短い型があります。長い

型は精巣などのステロイド生成組織で発現し、ステロイドホルモン産生のためにコレステロールエステルを遊離コレステロールに変換します。短い型は脂肪組織などで発現し、貯蔵されているトリグリセリドを遊離脂肪酸に加水分解します。[RefSeq 提供、2008年7月]、触媒活性: ジアシルグリセロール + H<sub>2</sub>O = モノアシルグリセロール + カルボン酸塩。触媒活性: モノアシルグリセロール + H<sub>2</sub>O = グリセロール + カルボン酸塩。触媒活性: トリアシルグリセロール + H<sub>2</sub>O = ジアシルグリセロール + カルボン酸塩。酵素調節: カテコールアミンの影響下で cAMP 依存性リン酸化によって速やかに活性化されます。脱リン酸化と不活性化はインスリンによって制御される。機能: 脂肪組織および心臓では、主に貯蔵トリグリセリドを遊離脂肪酸に加水分解する。一方、ステロイド産生組織では、主にコレステロールエステルを遊離コレステロールに変換し、ステロイドホルモンを産生する。経路: グリセロ脂質代謝; トリアシルグリセロールの分解。類似性: 「GDXG」脂肪分解酵素ファミリーに属する。細胞内局在: 高密度の小胞体に存在する。インスリン刺激により小胞体から細胞質へ移行する。サブユニット: 脂肪細胞の細胞質において PTRF と相互作用する。

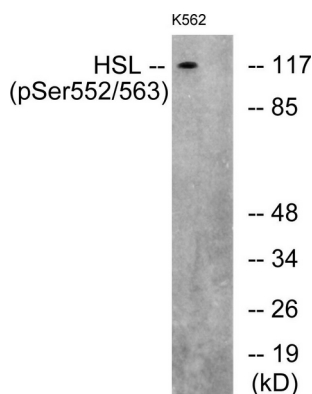
## 研究分野

インスリン受容体; AMPK

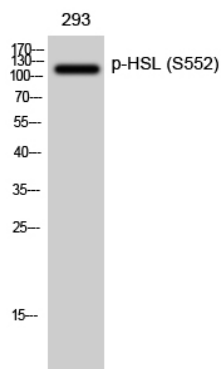
## 画像データ



HSL (リン酸化 Ser552) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



K562 細胞ライセートの HSL (リン酸化 Ser552) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



1: 500 希釈の Phospho-HSL (S552) ポリクローナル抗体を用いた 293 細胞のウェスタンブロット解析